

妙情蘭風

宗教學者、文學博士。

明治六年七月、二十五日京都生

札、昭和二十四年七月、二十三日歿（八七三—九四九）。本名正治。別號九

皇生、夢伯林士。明治二十九年帝國大學文科大學哲學科卒。在學中高

山樗牛、鹽井雨江、上田敏等と雜誌『帝國文學』を創刊。歐洲留學後

東京帝大初代宗教學教授、また樗牛會創設に參與し『樗牛全集』の編

纂に當る。大正十一年東京帝大附屬圖書館館長。

著譯書『上世印度宗教史』（明治二十二年二月二十三日博文館）、『復

活の曙光』（昭和二十七年一月一日有朋館）、『現身佛と法身佛』（再

版・明治二十七年十一月十日有朋館）、『清見湯に於ける樗牛一附、

樗牛會著』報告』（編、明治二十八年十一月十九日樗牛會、東京堂書

店發賣）、『國運と信仰』（明治二十九年二月二十三日弘道館）、高

山林次郎小説原作『^脚本瀧口入道』（脚本改作、明治二十九年四月二十

日春陽堂）、『美の宗教』（明治四十年五月二十一日博文館）、『^上於

確會いの名著講演集、第一輯』（合著・千葉縣師範學校上確會、明治四

十一年二月二十九日千葉・上確會）、『むら雲』（合著・大河桂月・

樋口龍政編、明治四十一年二月五日自高有倫堂）、『花の日記』（明

治四十一年六月二十一日博文館）、『南北朝問題と國體の大義』（明治

四十四年二月十八日博文館）、『停

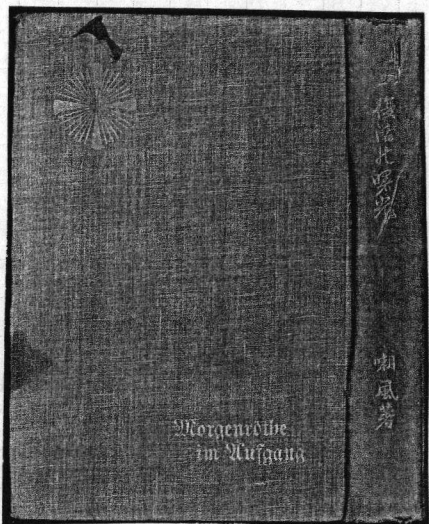
雲集』（明治四十四年七月二十五日

博文館）、『土氣と修養との關係する

拉魯的觀察』（大正二年六月十五日

序・海軍大學校）、『高山樗牛と自

蓮上人』（山川智應共編、大正二年



妙情蘭風

朝風著

Morgenröte
im Aufgange

- 六月(二十一日博文館)、齋藤野の入遺稿『哲人何處にありや』(小山
 龍浦共編、大正二年九月十日博文館)、『法華經の行者自述』(大正
 五年十月五日博文館)、『新時代の宗教』(大正七年二月五日博文
 館)、『世界文明の新紀元』(大正八年二月十五日博文館)、『光あ
 れ』(大正九年五月二十日阪博多成教堂・東京成教堂)、『社會の動
 搖と精神的覺醒』(大正九年十一月五日博文館)、ジ・ビ・アダム著
 『理想主義と現代文化』(譯、大正十年七月十八日博文館)、『物
 質文化の精神文化』(小島徳瀨記、大正十一年九月十日世界思想
 研究會『世界パンフレット通信』號外)、『切支丹禁制の終末』(大
 正十五年五月十五日博文館)、『自述上人文抄』(校註、昭和五年十
 月五日岩波書店『岩波文庫』)、『RAJAN KARANIYAN (LECTURES, E-
 SSAYS AND STUDIES)』(MASAHARU ANESAKI 各、朝風會編、昭和九年十
 月二十日ヘラルド社)、『已辨集』(朝風會編、昭和九年十二月十
 八日大東出版社)、『佛敎講話』(合著・佛誕二千五百年記念學會編、
 昭和十年五月二十日改清社)、『文化の原動力とその轉機の問題』(昭
 和十年六月二十八日啓明會事務所『講演集』)、『たびまくら』(第
 二集、昭和十一年十二月十日、第四集、十一年十二月十日自刊)、『上
 宮餘光』(昭和十五年二月十五日自刊)、『上宮宮太子即佳徳王文抄』(集
 字、昭和十六年二月一日奈良・法相宗觀聲院同窓會)、元政著『艸山
 集・孝心篇』(編著、昭和十六年二月二十日京都・公榮寺書店)、『た
 らちねとまご子』(昭和十六年十一月二十五日自刊)、『わが生涯』
 (昭和二十六年四月二十五日養徳社)等。